

「農林水産研究開発レポート」
平成 16 年度テーマについて（案）

平成 16 年 4 月 20 日
技 術 政 策 課

1. これまでの経緯

農林水産研究開発レポートは、農林水産技術会議の政策推進機能と情報発信機能の強化を図る観点から、昨今の行政ニーズが特に高く、政策的色彩の濃い研究開発課題の取組状況について、わかりやすく取りまとめ、広報することを目的としている。

これまでの発行実績については、別添（参考）のとおり。

2. 平成 16 年度テーマ（案）

農林水産研究開発レポートの平成 16 年度テーマについては、政策的色彩の濃い研究課題を選定するとの考えに立ち、以下のテーマを提案する。

技術会議への報告時期	テーマ（仮称）	記載内容例（案）
第 1 四半期 （16年 7 月）	食品の品質保証のための研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティ ・品質表示の裏付け技術 ・リスク分析確立
第 2 四半期 （16年 9 月）	環境保全型農業に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・天敵等の利用による病害虫防除 ・臭化メチル代替技術
第 3 四半期 （16年 9 月）	食料・環境問題の解決を目指した国際農業研究	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のコメ需給の安定化への貢献 ・アフリカで砂漠と闘う
第 4 四半期 （17年 2 月）	大規模施設園芸の低コスト・高生産性技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト耐候性施設 ・自動搬送、ハイワイヤ-整枝等軽労化技術

注 1：情勢変化等によりテーマの変更はあり得る。

2：刊行時期は、技術会議への報告の翌月を基本とする。

テーマ候補（案）

テーマ候補名
・ 遺伝子組換え作物の安全性評価と P A の取り組み
・ 途上国における持続的農林水産業発展のための研究開発
・ 大豆の高品質安定生産と高付加価値化に向けた研究開発
・ 人獣共通感染症の解明研究
・ ナノバイオに関する研究開発
・ 生物遺伝資源の収集・保管・利用
・ 自給飼料利用による日本型畜産
・ 果樹の低コスト・高付加価値生産に向けた研究開発
・ 野生鳥獣害対策
・ 産学官連携研究の取組状況
・ 知的財産権をめぐる現状

(参考)

『農林水産研究開発レポート』の取組実績について

平成16年4月

1 刊行実績

「麦の高品質化を目指して」	(平成13年10月刊行)
「イネゲノム情報を読む」	(平成14年1月刊行)
「家畜排せつ物処理・利用技術の高度化」	(平成14年4月刊行)
「機能性食品の開発」	(平成14年9月刊行)
「バイオマスエネルギー利用技術」	(平成15年1月刊行)
「新たな用途に向けたイネの研究開発」	(平成15年3月刊行)
「昆虫テクノロジー研究」	(平成15年5月刊行)
「地球温暖化の防止に関わる森林の機能」	(平成15年9月刊行)
「海洋生態系と水産資源」	(平成16年2月刊行)

2 公表・広報

全国の行政機関、試験研究機関、大学、農業高校、図書館、民間団体、消費者団体等に約6千部を配布

農林水産技術会議ホームページに全文を掲載

刊行時にプレスリリースを実施

他の刊行物にレポートに関するPR記事を掲載

メール、FAX、郵便等による意見・感想を継続的に募集